

## 奉仕を实践し みんなに豊かな人生を

2013-14 年度 国際ロータリー会長  
ロン D. バートン

おはようございます。ロータリーの2013年国際協議会へようこそお越しくださいました。本日、こうしてここに立つと、26年前にテネシー州ナッシュビルで、ガバナー・エレクトとして国際協議会に出席したときのことを思い出します。その時の経験は本当に素晴らしいものでしたが、この協議会も皆さんにとって素晴らしいものとなることを願っております。実は、1987年の協議会と、2013年の協議会には、ロン・バートンが出席している、ということ以外に、もう一つの共通点があります。

26年前、私は同期のガバナー・エレクトと一緒に、次年度の就任準備に加え、ロータリーの歴史上、最も壮大かつチャレンジに満ちたプログラムに乗り出す準備をしていました。それは、ポリオ・プラスです。「地球上からポリオを撲滅する」というプログラムは、ロータリー史上初めての募金キャンペーンであり、ロータリーが公言した約束としては、かつてないほど大きなものでしたが、私たちにはこれに取り組む心構えが整っていました。

当時でさえ、これはすぐに実現できるような簡単なことではないと分かっていました。しかし、2013年になってもまだ活動が続いていると知っていれば、そのときガバナーになりたくないと言う人が出ていたかもしれません。しかし当時、そして今も、撲滅は可能であることを、私たちは知っていました。世界中の子どもたちとそれに続く世代、そして、私たちの成功によって勇気づけられ、意欲を燃やす次世代のロータリアンにとって、この成功が何を意味するかは、当時も分かっていました。

26年前、同期ガバナーたちとともに、この協議会で、ポリオ撲滅という仕事が始まったのです。

そして今日、この仕事を終わらせるガバナーとなる皆さまの前に、私は立っています。ナッシュビルでのあの1週間に、ポリオについて多くのことを学び、さらに、それ以来も多くのことを学んでまいりました。しかし、私が、そして私たち全員が学んだ一番大切なことは、30年間ポリオが発生していない国であれ、月に数千人の感染者が出ている国であれ、どこに住んでいようと、何かができるということです。車椅子や松葉杖で生活している子どもや、地面を這っている子どもたちを救うことができる。ロータリーを通じて、彼らの人生を変えることができる。そのことに、私たちは気づきました。人々の人生を変える、という言葉はそれまでも聞いたことがありましたが、あの一週間に、それが一気に現実味を帯びたものとなり、大きな意味を持つようになりました。

あの時、私たち全員にとって、ロータリーに対する見方が大きく変わったと思います。私やガバナーとなる皆さん、また、クラブ会長など、あらゆるレベルのロータリーのリーダーにとっての課題は、すべてのロータリアンが、あのようなひらめきの体験、つまり、ロータリーとは何か、ロータリーはどんな可能性を開いてくれるのか、ロータリアンであることがどれほど荣誉であるかを、実感する経験が持てるようにすることです。

現在は、ロータリアンにとって興奮に満ちた時です。ロータリーの全盛期がこれからやってくると私は信じています。ポリオの撲滅がかつてないほど実現に近づいている今、私たち

は、ロータリーの歴史における一つの章の終わりのページを書こうとしています。そして、未来の夢計画の開始とともに、新たな章の第一ページを書き出そうとしています。

未来の夢は、ロータリー財団の新たな時代の幕開けです。ロータリーの素晴らしさをすべて取り入れた未来の夢は、さらに大きく、持続可能な国際プロジェクトを促すと同時に、地域社会のニーズに応える地元プロジェクトでの柔軟性を高めることによって、ロータリーを新しい次元へと昇華させるものです。従来のやり方を大きく変えることになりましたが、新システムへの移行においてクラブを援助することは、皆さんの仕事の大きな部分です。地区ロータリー財団委員長と協力しながら、未来の夢や変化の恩恵についてクラブが理解し、活動の中でリソースを最大活用できるよう支援することが、ガバナーである皆さんの仕事です。

私の故郷、オクラホマ州では、偉そうに話す人がいたら、言葉だけでなくお金を出せ、と言うことがあります。私もロータリー財団について偉そうに話すことがありますので、寄付をするようにしています。すべてのロータリアンは、寄付先として財団を第一に選ぶべきだと思います。ロータリー役員なら、なおさらです。誰かに寄付をお願いするなら、まず自分が寄付をし、「模範を示して導く」必要があります。財団に個人的に寄付するよう、協議会の前に私から皆さま全員をお願いしたのは、この理由からです。そして今日、皆さま全員、そしてR I 理事会と財団管理委員会の全員が、これを実行してくださったことをご報告でき、大変嬉しく思います。

これによって、総額 **675,000** ドルの寄付が集まりました。

もし私が寄付をお願いしていなければ、これだけの寄付は集まらなかったのではないかと思います。これは、今日ここにいる私たち全員が心得ておくべきことだと思います。誰かに何かをしてもらうとき、相手がそれに気づいて自発的に行動するのを待つか、お願いするか、二つの選択肢がありますが、後者の方がずっと理に適っているのではないのでしょうか。

高校時代、私はキー・クラブに所属して活発に活動していました。「キー・クラブ」が国際ロータリーの青少年プログラムではないことは、皆さまならおそらくご存じだと思います。これは、ほかの奉仕団体、国際キワニスの青少年プログラムです。当時、自分はいつの日かキワニアンになるだろうと思っていました。

しかし今日、国際キワニスの会長エレクトではなく、国際ロータリーの会長エレクトとしてここに立ち、次期役員研修を行っています。これはなぜだかお分かりでしょうか。

その理由は、誰も私をキワニス・クラブに入会するよう誘ってくれなかったからです。一方、私を入会に誘ってくれたのは、オクラホマにあるノーマン・ロータリー・クラブでした。今日ここにいるのは、その時に入会を頼まれたからです。

ですから、まずはお願いすることが重要です。隣に座っている人や、会員増強委員や、勧誘が得意そうな人や、時間がありそうな人にやってもらうのではなく、皆さん自身がお願いしなければなりません。会員増強は、他人事ではなく、私の責務であり、皆さん自身の責務であり、ロータリアン全員の機会です。

お願いしなければなりません。入会の誘いを待っている人であれ、ロータリーへの入会を考えたことのない人であれ、候補者を探し出し、クラブに入会してもらえようお願いする必要があります。勧誘が成功し、入会を **OK** してもらい、その人が会員となっても、皆さんの仕事はそれで終わるわけではありません。むしろ、仕事はそこから始まります。新会員を指導し、彼らがクラブで重要な役割を担い、ロータリーで満足感を得られるようにしな

ければなりません。

ロータリーに入会した新会員全員を維持できれば、会員増強など問題にならないはずですが。毎年、ロータリーには、およそ 12 万人という大勢の人が入会します。しかし毎年、ほぼ同じ数の会員が退会しています。15 年以上にわたり会員数が約 120 万人にとどまり、会員数が横ばいとなっているのは、このためです。

本腰を入れなければならない時が来ています。ただ問題について話し合うのではなく、行動を起こさなければなりません。最初にすべきことは、退会者に目を向け、退会理由は何なのか、また、それについて私たちにできることがあるかを考えることです。私たちは、2015 年までにロータリーの会員数を 130 万人まで増やすことを目標として掲げています。これは、十分に達成可能な目標です。しかし、正面玄関から入会して来た人たちが、すぐに裏口から出て行ってしまうのはなぜか、その理由を突き止める必要があります。

1987 年、ロータリーは女性に入会の門戸を開きました。それは、ロータリーにとって記念すべき日でした。しかし、回りを見回してすぐ分かるように、今日この会場にもっと多くの女性がいなければならないことは明らかです。次期ガバナーの半数が女性であってはならない理由はありません。これは、私たちが取り組むべき課題です。さらに、ロータリーに若い会員を迎え入れ、現在のローターアクター、インターアクター、ライラリアン、青少年交換学生、財団奨学生、G S E チームメンバーに、明日のロータリアンになってもらえるよう努める必要があります。

場合によっては、クラブの規則や伝統に関して少し柔軟になるようクラブに奨励しなければならないこともあります。すべてを変えるわけではなく、ロータリーが生き残るには、時代の変化とともに自分たちも変わる努力をしなければならないということです。例会時間や例会場を変えたり、新クラブの形態の見直すなど、大切なのは、クラブの現状を見据え、柔軟に適応する努力をすることです。

ロータリアンなら誰しも、「自分だったら今日このクラブに入会したいと思うだろうか」と自問してみるべきです。その答えが「ノー」なら、その理由を考えてみてください。ご自分のクラブをもっと魅力的にし、誇りとできるようにするには、何を変える必要があるでしょうか。

ロータリアンは十人十色です。ロータリーに入会した理由も、人それぞれです。ロータリーに入会した理由と、ロータリーにとどまり続ける理由が違う場合もあります。しかし、ここにいる私たち全員、そして、ロータリーでリーダーの役職を引き受けた方全員が、ロータリーに打ち込むきっかけとなる何かをロータリーで見つけた体験をお持ちだと思います。

皆さんにとってそれが何であれ、生涯ロータリアンであり続けたいと思ったきっかけが何であれ、それをほかの人々と分かち合い、彼らもそのきっかけが見出せるよう手伝ってあげてください。ロータリアンがかかわれば、また、ロータリアンが積極的になれば、人々の人生を豊かにすることができるのです。

これからガバナーとなる皆さん、この理由から、私は 2013-14 年度のテーマを、「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」といたしました。

2013-14 年度のガバナーとなる皆さんの役目は、ロータリアンに意欲を与え、積極的な参加を促し、より良い世界を築く力の一部となる機会を分かち合うことです。ロータリーを通じて会員一人ひとりに与えられる可能性を、皆さん自身が模範となって示してください。そ

それぞれの会員がロータリーで何をしたいのかを考え、ロータリーで何かを見いだし、ロータリーの奉仕が持つ力に目覚め、意欲を燃やすことができるよう、会員を導いてください。

ロータリーの未来のために私たちにできる一番重要なことは、すべてのロータリアンが積極的に参加し、最大限に自己を生かせるよう支援することです。ロータリーの奉仕の発展を心から願うならば、今、ここにいる私たちが抱いているのと同じ気持ちを、すべてのロータリアンに抱いてもらわなければなりません。すべてのロータリアンが重要な役割を果たすと同時に、その貢献を称えることが必要です。それが実現すれば、正面玄関から入った人がすぐに裏口から出てしまうようなことはなくなるでしょう。彼らはロータリーにとどまり続け、真のロータリアンとなり、新たな会員を見つけ、変化をもたらしていくでしょう。会員増強の活動は、新会員を入会させたときに終わるものではありません。その新会員がロータリーに積極的に参加し、ロータリーによって意欲を高め、ロータリーの奉仕のパワーで人々の人生を豊かにできるようになって初めて、仕事が終わったことになるのです。

皆さんは選ばれた方々です。クラブの会員として選ばれ、ガバナーとして選ばれました。皆さん一人ひとり、ロータリーのリーダーとなる責任を引き受けることを選びました。

地区がどれだけのことを成し遂げるか、何人のロータリアンが意欲を高めるか、何人のロータリアンが誰かの人生を変えることになるかは、皆さんの熱意と献身、そして新しいアイデアを受け入れる意思にかかっています。時には、「危険を冒して枝の先まで行く」勇気を持たなければなりません。なぜなら、「そこには実がなっているから」です。

一つだけ、皆さんにお約束できることがあります。それは、皆さんがどれほどの達成を遂げようと、次年度にどのような奉仕を行おうと、一番豊かになるのは、皆さん自身の人生だということです。

さあ、今、その時がやってきました。私たちはともにこの旅に出発します。力を合わせて、ロータリーをより良い未来へと導き、「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」もたらしていきましょう。

ご清聴ありがとうございました。

\*2013年国際協議会『講演集』から